

論説

間接関与型使役表現の アスペクト的な意味

—日本語とアムド・チベット語を対照して—

扎西才讓

0 はじめに

筆者の研究では「～させる」と「keu jeug」が付く日本語とアムド・チベット語の使役表現を、次のように三つのパターンに分類している。

使役表現	関与型	直接関与型 (例) 先生が学生に本を読ませた。
		間接関与型 (例) 看守が見ぬふりをして囚人を逃げさせた。
	非関与型	(例) 父が息子を戦場で死なせた。

本稿で取り扱う日本語の間接関与型使役表現の意味については、松下大三郎(1924)は「使動の意義には拘束的意義と許容的意義とある」と「許容」の意味を指摘した。宮地裕(1969)は使役表現の意味を5分類し、本研究でいう間接関与型使役表現の意味に当たる「ダレカが、ダレカの動作を許容することを表す」という〈許可〉という意味と「ダレカが、ダレカの自由放置を認めることを表す」という〈放置〉という意味を指摘した。佐藤里美(1986)は〈許可〉と〈放置〉を認めた上で、〈放置〉をさらに「意図的放置」と「非意図的放置(放置=不本意)」に分類している。

チベット語の使役表現についての研究はほとんど筆者の拙論のほかは見当たらないのが現状である。筆者の博士学位論文では両言語の間接関与型使役表現を意志動詞が述語となる場合と無意志動詞が述語となる場合に二分し、意味としては前者の場合〈許可〉と〈放任〉を、後者の場合〈放置〉を表す点では両言語が共通していることを論じた。

本稿では〈放任〉と〈放置〉の意味を表す間接関与型使役表現に焦点を当て、両言語の〈放任〉と〈放置〉におけるアスペク的な意味の共通点と相違点を考察する。

1. 両言語のアスペク的な意味における共通点

1.1 〈放任〉におけるアスペク的な意味

次の例文(1)は、被使役者である「囚人」が自らの意志によって「逃げる」という行為を引き起こそうとしている、あるいは引き起こしていることを、使役者である「看守」が妨げようとすればできるのに、そうせずに「見ぬふりをして」成り行きに任せたという〈放任〉を表す典型的な間接関与型使役表現の例文である。

(1) 看守が見ぬふりして囚人を逃げさせた。

tson hrong geu ma reug kho ci ni tson ma bro geu zheug
 看守 geu 見ぬふりして 囚人 逃げる geu zheug

この例文を使役者である「囚人」が被使役者の行為をどの段階で放任したかというアスペクのことを問題にすると、「囚人」が「逃げる」という行為を引き起こそうとしていることを放任したことと、「囚人」が「逃げる」という行為を引き起こしていることを放任したことに解釈できる。ここでは前者を〈発生放任〉と呼び、後者を〈進行放任〉と呼ぶ。

ところが、例文(1)の中の「見ぬふりして」という〈放任〉をはっきりさせる語句を差し引くと次の例文(1')のように〈放任〉という意味に

解釈しにくくなる。

(1') 看守が囚人を逃げさせた。

tson hrong geu tson ma bro geu zheug
 看守 geu 囚人 逃げる geu zheug

したがって、「使役態+テンス」の形で文が終わっている場合は両言語とも「見ぬふりして」「知らないふりして」「そのまま」のような放任を示す語句と共起する必要があることが分かる。

なお、次の例文(1'')のように「使役態」の後ろにそれぞれ日本語の「～ておく」とアムド・チベット語の「～'xi zhak⁽¹⁾」という形式を付けると「見ぬふりして」「のような放任を示す語句がなくとも同じように〈放任〉を表すことになる。

(1'') 看守が囚人を逃げさせておいた。

tson hrong geu tson ma bro geu zheug'xi zhak
 看守 geu 囚人 逃げる geu zheug'xi zhak

しかし、この例文(1'')の場合は被使役者が引き起こしている行為は使役者が〈放任〉しているものの、まだその被使役者の行為は使役者のコントロールできる範囲にある点が、例文(1)の場合と異なる。ここでは例文(1'')のように使役者が被使役者の行為をコントロールできる範囲で放任する場合の意味を〈統制内の進行放任〉と呼び、例文(1)のように使役者が被使役者の行為を成り行きに任せただけのもの、その行為が使役者のコントロールできる範囲にあるかどうかは不明な場合の意味を〈非統制内の放任〉と呼ぶ。

この例文(1)と(1'')のもう一つの違いはアスペク的な意味にある。つまり例文(1'')は「囚人」が「逃げる」という行為を引き起こしていることを放任したという〈統制内の進行放任〉の意味にしかならず、「囚人」が「逃げる」という行為を引き起こそうとしていることを放任したという〈発生放任〉の意味には解釈できなくなる。

次の例文 (2) と (2') の場合もアスペク的な意味として同じ解釈ができる。

(2) 見ぬふりして子供を庭で遊ばせた。

ma ruek kho yi ni sha yi lhi ni 'tse 'xeu zheug

見ぬふりして 子供 庭 で 遊ぶ 'xeu zheug

(2') 見ぬふりして子供を庭で遊ばせておいた。

ma ruek kho yi ni sha yi lhi ni 'tse 'xeu zheug 'xi zhak

見ぬふりして 子供 庭 で 遊ぶ 'xeu zheug 'xi zhak

つまり、例文 (2) の場合、子供が遊ぼうとしているのを放任したという〈発生放任〉の意味と、子供が遊んでいるのを放任したという〈進行放任〉の二通りに解釈できるのに対して、例文 (2') は子供が遊んでいるのを妨げようとすればできるのに、そうせず放任したという〈統制内の進行放任〉にしか解釈できなくなる。

以上をまとめると、意志動詞が述語となる間接関与型使役表現の場合は、両言語とも「使役態+テンス」の形で終わっている文は放任を表す語句と共に、〈発生放任〉や〈進行放任〉というアスペク的な意味に解釈できるのに対して、「～ておく/'xi zhak」が伴う文は〈統制内の進行放任〉の意味にしか解釈できないということである。

1.2 〈放任〉におけるアスペク的な意味

間接関与型使役表現の意味を〈放任〉に解釈するには、その述語となる動詞は無意志動詞であることが前提となる。その無意志動詞には有情物の心理的・生理的な変化を表すものもあれば、無情物であるモノやコトの変化を表すものもある。以下ではそれぞれの無意志的な動詞が述語となる間接関与型使役表現のアスペク的な意味を考察する。

次の例文 (3) は「興奮する/Ver lang」という人間の心理状態の変化を表す無意志動詞が述語となっており、しかも「させる/geu zheug」と

いう使役態に「～ておく/～‘xi zhak」を付けて終わっている使役表現である。

(3) 太郎は次郎を興奮させておいた。

taro ' xeu jiro Veur lang geu zheug xi zhak

太郎 ' xeu 次郎 興奮 geu zheug xi zhak

この例文(3)は意味として二通りに解釈できる。すなわち、太郎は何らかの働きかけによって次郎の心理状態から興奮の状態に変化させ、その変化の結果を放置したという〈結果放置〉の意味と、次郎の心理状態が自然に興奮の状態に変化し、使役者の位置のある「太郎」がその状態の継続を妨げようとすればできるのに、そうせずに放置したという〈統制内の状態放置〉の意味にも解釈できる。なお、〈結果放置〉は使役表現のパターンとして「直接関与型」となるため、本稿では考察対象外とする。

しかし、こうした有情物の心理状態の変化を表す無意志動詞が述語となる使役表現は、後ろに「～ておく/～‘xi zhak」を付けずには次の例文(3')のように直接関与型の〈変化の引き起こし〉という意味にしかならず、〈状態放置〉の意味に解釈できなくなる。

(3') 太郎は次郎を興奮させた。

taro ' xeu jiro Veur lang geu zheug.

太郎 ' xeu 次郎 興奮 geu zheug.

また、次の例文(3'')のように「見ぬふりして」のような「放置を表す語句」を加えても間接関与型的に解釈することができず、文として不自然なものとなる。

(3'') ?太郎は見ぬふりして次郎を興奮させた。

?taro ' xeu ma reug kho yi ni jiro Veur lang geu zheug.

太郎 ' xeu 見ぬふりして 次郎 興奮 geu zheug.

同じように、「沸騰する/‘deu」というようなモノの動きを表す無意志動詞が述語となる場合も〈結果放置〉と〈統制内の状態放置〉の二通りの意

味に解釈できる。

(4) 太郎がお湯を沸騰させておいた。

taro ' xeu cheu ' deu ' xeu zheug 'xi zhak

太郎 ' xeu お湯 沸騰する ' xeu zheug 'xi zhak

しかし、「～ておく/～'xi zhak」を付けずには次の例文(4')のように直接関与型の〈変化の引き起こし〉という意味にしかならず、間接関与型の〈状態放置〉の意味には解釈できなくなる。

(4') 太郎がお湯を沸騰させた。

taro ' xeu cheu ' deu ' xeu zheug

太郎 ' xeu お湯 沸騰する geu zheug.

また、次の例文(4'')のように「見ぬふりして」のような放置を示す語句を加えても間接関与型的に解釈することができない。

(4'') ?太郎が見ぬふりして湯を沸騰させた。

?taro ' xeu ma reug kho yi ni cheu ' deu ' xeu zheug

太郎 ' xeu 見ぬふりしてお湯 沸騰する geu zheug.

ここで言えるのは、「興奮する/Ver lang」や「沸騰する/'deu」のような言わば「瞬間動詞」が述語となる場合、「使役態+テンス」の形では間接関与型的の意味に解釈できないが、「～ておく/～'xi zhak」を付けることによって、その「瞬間動詞」も継続的に捉えて〈統制内の状態放置〉というアスペク的な意味を表すようになる。

ところが、次の例文(5)は「エスカレートする/zda trak' xa 'gyo」というコトの動きを表す無意志動詞が述語となる間接関与型使役表現であるが、「使役態+テンス」の形でも間接関与型的の意味に解釈できる。つまり、「二人の関係がエスカレートする」という出来事の発生しようとしている、あるいは発生しつつあるのを、「彼」が妨げなかったという〈発生放置〉と〈進行放置〉のアスペク的な意味に解釈できる。なお、それは使役者の位置にある「彼」のコントロール下にあるかどうかは不明であ

る。

(5) 彼は知らないふりして二人の関係をエスカレートさせた。

khe 'geu ma xi ko yi ni khe nyeu 'xeu dre wa zda trak 'xa 'gyo
'xeu zheug

彼は 知らないふりして 二人の 関係 エスカレートする
'xeu zheug

ところが、この例文(5)の「知らないふりして」という〈放置〉を示す語句を差し引くと次の例文(5')のように〈放置〉という意味に解釈しにくくなる。

(5') 彼は二人の関係をエスカレートさせた。

khe 'geu khe nyeu 'xeu dre wa zda trak' xa 'gyo 'xeu zheug

彼は 二人の 関係 エスカレートする 'xeu zheug

しかし、同じ例文に「～ておく/～'xi zhak」を付けると次の例文(5'')のように「二人の関係がエスカレートしつつあるのを「彼」が妨げようとするには、そうせず放置したという〈統制内の進行放置〉の意味も表せるようになる。

(5'') 彼は知らないふりして二人の関係をエスカレートさせておいた。

khe 'geu ma xi ko yi ni khe nyeu 'xeu dre wa zda trak 'xa 'gyo
'xeu zheug 'xi zhak

彼は 知らないふりして 二人の 関係 エスカレートする
'xeu zheug xi zhak

以上をまとめると、上の例文(3)～(4)はそれぞれ「興奮する/Verlang」,「沸騰する/'deu」という無意志動詞が使役表現の述語となっており、「～ておく/～'xi zhak」が付く場合、間接関与型的なアスペクト的な意味として〈統制内の状態放置〉を表し、「使役態+テンス」で終わっている文は、放置を示す語句を付けても間接関与型的な意味に解釈できなくなる。それに対して、「エスカレートする/zda trak' xa 'gyo」という無意

(30)

志動詞が述語となる例文(5)は、放置を示す語句と共に「使役態+テンス」で終わっている文でも、〈発生放置〉と〈進行放置〉の意味に解釈ができ、「～ておく/～'xi zhak」が付く場合、〈統制内の進行放置〉を表すようになる。

こうした違いは述語となる動詞の性質によるものだと考えられる。つまり、「興奮する/Ver lang」や「沸騰する/'deu」のような変化動詞は、その変化を瞬間的に完成するものであることに対して、「エスカレートする/zda trak' xa 'gyo」のような変化動詞は、その変化を一定のプロセスを経て完成するものである。ここでは前者のように変化を瞬間的に完成する無意志動詞を「瞬間的变化動詞」と呼び、後者のように変化を一定のプロセスを経て完成する無意志動詞を「過程的变化動詞」と呼ぶ。

したがって、以下の結論が得られる。つまり、上の例文(3')/(3'')と(4')/(4'')は「瞬間的变化動詞」が述語となっているため、「使役態+テンス」で終わっている文は、放置を示す語句を付けても直接関与型的な意味にしかならず、間接関与型的な〈放置〉の意味に解釈できないのに対して、例文(5)は「過程的变化動詞」が述語となっているため「使役態+テンス」で終わっている文でも、放置を示す語句と共に〈発生放置〉と〈進行放置〉の意味に解釈ができる。また、「～ておく/～'xi zhak」が伴う場合、「過程的变化動詞」が述語となる例文(5'')は〈統制内の進行放置〉を表すのに対して、「瞬間的变化動詞」が述語となる例文(3)と(4)は〈統制内の状態放置〉を表すようになる。

ところが、次の「死ぬ/xeu」という人間の生理的な動きを表す無意志動詞が述語となる例文(6)は、「太郎」が「次郎が死ぬ」という出来事が発生しようとしている、あるいは発生しつつあるのを妨げなかったという〈発生放置〉と〈進行放置〉という意味になる。そのような意味に解釈できるのは「死ぬ/xeu」という動詞を生きている状態から死んでいる状態に一步一步近づくという「過程的变化動詞」として捉えられているからだ

と考えられる。

(6) 太郎は次郎をそのまま死なせた。

taro 'xeu ji ro de xe xeu 'xeu zheug

太郎 'xeu 次郎そのまま死ぬ 'xeu zheug

なお、この例文(6)の「そのまま」という〈放置〉を示す語句を差し引くと次の例文(6')のように〈放置〉という意味に解釈しにくくなる。

(6') 太郎は次郎を死なせた。

taro 'xeu ji ro xeu 'xeu zheug

太郎 'xeu 次郎φ死ぬ 'xeu zheug

上の例文(6)に「～ておく/～xi zhak」を付けると次のように「次郎が死ぬ」という出来事が発生しつつあるのを妨げようとすればできるのに、そうせず放置したという〈統制内の進行放置〉を表すようになる。

(6'') 太郎は次郎をそのまま死なせておいた。

taro 'xeu ji ro de xe xeu 'xeu zheug 'xi zhak

太郎 'xeu 次郎φそのまま 死ぬ 'xeu zheug 'xi zhak

したがって、「死ぬ/xeu」という動詞には「使役態+テンス」で終わっている文でも、放置を示す語句と共に〈発生放置〉と〈進行放置〉の意味に解釈ができるため、「過程的変化動詞」の性質を持っていると同時に、「～ておく/～'xi zhak」と共に〈統制内の状態放置〉の意味にも解釈できるため「瞬間的変化動詞」の性質も持っていると言える。

1.3 本節のまとめ

本節では両言語の間接関与型使役表現の主な意味である〈放任〉と〈放置〉におけるアスペク的な意味の共通点について述べた。

意志動詞が述語となる間接関与型使役表現は〈放任〉を表すが、アスペク的な意味として両言語とも「使役態+テンス」の形で終わっている文は放任を表す語句と共に〈発生放任〉や〈進行放置〉というアスペク的な

な意味に解釈できるのに対して、「～ておく/‘xi zhak」が伴う文は〈統制内の進行放任〉の意味にしか解釈できないという点で共通している。

無意志動詞には有情物の心理的・生理的な変化を表すものもあれば、無情物であるモノやコトの変化を表すものもあるが、その変化が瞬間的に完成するものか、それとも一定のプロセスを経て完成するものかによって「過程的变化動詞」と「瞬間的变化動詞」に分けられる。

そのうち「過程的变化動詞」が述語となり、「使役態+テンス」で終わっている文は放置を示す語句が伴うかは問わず〈発生放置〉と〈進行放置〉の意味に解釈でき、「～ておく/～‘xi zhak」が伴う場合、〈統制内の進行放置〉の意味に解釈できる。それに対して、「瞬間的变化動詞」が述語となる使役表現は、「使役態+テンス」で終わっている文だけでは直接関与型的な意味にしかならず、間接関与型的な〈放置〉の意味には解釈できない。「～ておく/～‘xi zhak」を付けることによって〈統制内の状態放置〉を表すようになる点は共通している。また、「死ぬ/xeu」という動詞は「過程的变化動詞」の性質も「瞬間的变化動詞」の性質も持っているため、「使役態+テンス」で終わっている文でも、放置を示す語句と共に〈発生放置〉と〈進行放置〉の意味に解釈でき、「～ておく/～‘xi zhak」と共に〈統制内の状態放置〉の意味にも解釈できる点も両言語が共通している。

2. 両言語のアスペク的な意味における相違点

2.1 〈放任〉における相違点

アムド・チベット語の場合〈放任〉の意味を表すものには「看守が見ぬふりして囚人を逃げさせた」のような通常の文のほかに次の例文(7)のようなもう一つの文型がある。

(7) kheu ‘geu meu ‘ge ‘sa na ‘sa ‘xeu zheug

彼 ‘geu 彼女 e 食べる na 食べる ‘xeu zheug

直訳：彼は彼女に食べるなら食べさせた

この例文の和訳の「食べるなら食べさせた」でも分かるように日本語では不自然な文になるが、アムド・チベット語では「見ぬふりして」のような放任を示す語句が伴わなくても〈放任〉の意味を表せるため、最も典型的な間接関与型使役表現の文型だと考えられる。ここでは「動詞 na 動詞 geu zheug」のような〈放任〉を表す仮定的な文型を「仮定的使役表現」と呼ぶ。これと対応させて「看守が見ぬふりして囚人を逃げさせた」のような通常の文を「非仮定的使役表現」と呼ぶ。

この「仮定的使役表現」の場合、アスペク的な意味としては「meu 'ge (彼女)」が自らの意志で「sa (食べる)」という行為を引き起こそうとしているのを「kheu 'geu (彼)」が妨げなかったという〈発生放任〉の意味を表す。

この例文に「知らないふりして」のような放任を示す語句を付けても、次の例文(7')のように彼女が食べようとしているのを彼が妨げなかったという〈発生放任〉の意味を表す。

(7') kheu 'geu ma xi ko yi ni meu 'ge 'sa na 'sa 'xeu zheug

彼 'geu 知らないふりして 彼女 e 食べる na 食べる 'xeu zheug

直訳：彼は知らないふりして彼女に食べるなら食べさせた

この例文(7')にさらに「~'xi zhak」を付けると次のように〈統制内の進行放任〉を表すようになる。

(7'') kheu 'geu ma xi ko yi ni meu 'ge 'sa na 'sa 'xeu zheug 'xi zhak

彼 'geu 知らないふりして彼女 'ge 食べる na 食べる 'xeu zheug

'xi zhak

直訳：彼は知らないふりして彼女に食べるなら食べさせておいた。

つまり、「meu 'ge (彼女)」が自らの意志で「sa (食べる)」という行為を引き起こしているのを「kheu 'geu (彼)」が妨げようとするればいつでもできるのに、そうせず知らないふりして妨げなかったという〈統制内

(34)

の進行放任)を表す。

次の「tse (遊ぶ)」という意志動詞が述語となる (8)~(8') までの例文でも同じようなことが言える。つまり、例文 (8) は子供が遊ぼうとしているのを母が妨げなかったという〈発生放任〉を表す。

(8) a ma 'xeu sha yi 'tse na 'tse 'xeu zheug
母 'xeu 子供 AAna 遊ぶ na 遊ぶ 'xeu zheug

直訳：母は子供を遊ぶなら遊ばせた

この例文に「知らないふりして」のような放任を示す語句を付けても、次の例文 (8') のように子供が遊ぼうとしているのを母が妨げなかったという〈発生放任〉の意味を表す。

(8') a ma 'xeu ma xi ko yi ni sha yi 'tse na 'tse 'xeu zheug
母 'xeu 知らないふりして子供 AAna 遊ぶ na 遊ぶ 'xeu zheug

直訳：母は知らないふりして子供を遊ぶなら遊ばせた

この例文 (8') にさらに「~'xi zhak」を付けると次のように子供が遊んでいるのを母が妨げようとすればできるのに、そうせず放任したという〈統制内の進行放任〉を表すようになる。

(8'') a ma 'xeu sha yi 'tse na 'tse 'xeu zheug 'xi zhak
母 'xeu 子供 AAna 遊ぶ na 遊ぶ 'xeu zheug 'xi zhak

直訳：母は子供を遊ぶなら遊ばせた (母が子供を遊ばせておいた)

以上をまとめると、日本語には「非仮定的使役表現」しかなく、「仮定的使役表現」の文型が存在しないのに対して、アムド・チベット語の場合「仮定的使役表現」は最も典型的な〈放任〉を表す文型と考えられる。こうした「仮定的使役表現」の場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は放任を示す語句が伴うかどうかを問わずに〈発生放任〉の意味を表し、さらに「~'xi zhak」を付けると〈統制内の進行放任〉を表すようになる。

2.2 〈放置〉における相違点

アムド・チベット語の場合、無意志動詞が述語となる場合も本研究でいう「仮定的使役表現」を使うことによって〈放置〉という意味を表すことが可能であるが、日本語では次の例文の和訳でも分るように「仮定的使役表現」は不自然な文となる。ここでは述語となる動詞を「瞬間的変化動詞」と「過程的変化動詞」に分けてアムド・チベット語の「仮定的使役表現」のアスペク的な意味を考察する。

次の例文(9)は、有情物の心理的な動きを表す「瞬間的変化動詞」が述語となっており、アスペク的な意味としては次郎の心理状態が通常の状態から「Veur lang (興奮する)」という状態に変化しようとするのを妨げなかったという〈発生放置〉の意味を表す。

(9) taro xeu ji ro Veur lang na lang geu zheug

太郎 xeu 次郎 興奮する na 興奮する geu zheug

直訳：太郎は次郎を興奮するなら興奮させた

この例文に「知らないふりして」のような放任を示す語句を付けても次の例文(9')のように〈発生放任〉の意味を表す。

(9') taro xeu ma xi ko yi ni ji ro Veur lang na lang geu zheug

太郎 xeu 知らないふりして次郎 興奮する na 興奮する geu zheug

直訳：太郎は知らないふりして次郎を興奮するなら興奮させた

この例文(9')にさらに「～xi zhak (～しておく)」を付けることによって、次郎の心理状態はすでに通常の状態から興奮するという状態になりつつある、あるいはすでに興奮した状態になっており、その状態を妨げようと思えばいつでもできるのに、そうせず放置したという〈統制内の進行放置〉〈統制内の結果継続放置〉の意味を表すようになる。

(9'') taro xeu ji ro Veur lang na lang geu zheug xi zhak

太郎 xeu 次郎 興奮する na 興奮する geu zheug xi zhak

直訳：太郎は次郎を興奮するなら興奮させておいた。

次の例文(10)は、コトの動きを表す「過程的变化動詞」が述語となっており、アスペクト的な意味としては、二人の関係をエスカレートしようとするのを妨げなかったという〈発生放置〉の意味を表す。

(10) keu nyeu 'xeu gel wa 'teung nga gyo na gyo 'xeu zheug
二人の関係 エスカレートする na する 'xeu zheug

直訳：二人の関係をエスカレートするならさせた。

この例文(10)に「知らないふりして」のような放任を示す語句を付けても次の例文(10')のように〈発生放任〉の意味を表す点では変わらない。

(10') ma xi ko yi ni keu nyeu 'xeu gel wa 'teung nga gyo na gyo
' xeu zheug
知らないふりして 二人の 関係 エスカレートする na する
' xeu zheug

直訳：知らないふりして二人の関係をエスカレートするならさせた。

この例文(10')にさらに「～xi zhak(～ておく)」を付けると、次の例文(10'')のように二人の関係をエスカレートしているのを妨げようと思えばいつでもできるのに、そうせず放置したという〈統制内の進行放置〉の意味のみを表すようになり、上の「瞬間的变化動詞」が述語となる例文(9')とは違って〈統制内の結果継続放置〉の意味には解釈できなくなる。

(10'') keu nyeu 'xeu gel wa 'teung nga gyo na gyo ' xeu zheug 'xi
zhak

二人 の 矛盾 エスカレートする na する 'xeu zheug 'xi zhak

直訳：二人の関係をエスカレートするならさせておいた。

以上をまとめると、「瞬間的变化動詞」が述語となる「仮定的使役表現」の場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わずに〈発生放置〉を表し、「～xi zhak(～ておく)」

の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉〈統制内の結果継続放置〉の意味を表す。それに対して「過程的変化動詞」が述語となる「仮定的使役表現」場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わずに〈発生放置〉を表し、「～'xi zhak (～ておく)」の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉の意味のみを表す。

2.3 本節のまとめ

両言語の関与型間接使役表現における最大の相違点といえば、アムド・チベット語の場合〈放任〉や〈放置〉を表す最も典型的な文型は「仮定的使役表現」であるが、日本語にはそのような文型が存在しないということである。したがって、〈放任〉や〈放置〉を表す使役表現における両言語のアスペク的な意味の相違点を問題とする本節では、主にアムド・チベット語の「仮定的使役表現」のアスペク的な意味を考察することにした。

アムド・チベット語の場合「仮定的使役表現」は〈放任〉や〈放置〉を表す最も典型的な文型と考えられる。意志動詞が述語となる〈放任〉を表す「仮定的使役表現」の場合と、無意志動詞のうち「過程的変化動詞」が述語となる「仮定的使役表現」場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わずに〈発生放置〉を表し、「～'xi zhak (～ておく)」の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉の意味のみを表す。これに対して「瞬間的変化動詞」が述語となる「仮定的使役表現」の場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わずに〈発生放置〉を表し、「～'xi zhak (～ておく)」の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉〈統制内の結果継続放置〉の意味を表す。

3. まとめ

本稿では〈放任〉と〈放置〉の意味を表す間接関与型使役表現に焦点を当て、両言語の〈放任〉と〈放置〉におけるアスペクト的な意味の共通点と相違点を考察した。

「非仮定的使役表現」である間接関与型使役表現の場合、両言語のアスペクト的な意味は共通点している。すなわち、意志動詞が述語となる〈放任〉を表す間接関与型使役表現と無意志動詞のうち「過程的変化動詞」が述語となる〈放置〉を表す間接関与型使役表現は同じようなアスペクト的な意味を表す。つまり、両者とも「使役態+テンス」で終わっている文は放置を示す語句が伴うかは問わず〈発生放置〉と〈進行放置〉の意味を表し、「～ておく/～‘xi zhak」が伴う場合、〈統制内の進行放置〉の意味を表す。こうした両者の共通点から分かるのは〈放任〉を表す間接関与型使役表現の述語となる意志動詞も過程的かそれとも瞬間的かといえば「過程的変化動詞」と同じように「過程的」であるということである（下表では意志動詞と「過程的変化動詞」を「過程的動詞」と総称し、「瞬間的変化動詞」もそれと呼びさせて「瞬間的動詞」と呼ぶ）。

無意志動詞のうち「瞬間的変化動詞」が述語となる使役表現は、「使役態+テンス」で終わっている文だけでは直接関与型的な意味にしかならず、間接関与型的な〈放置〉の意味に解釈できない。「～ておく/～‘xi zhak」を付けることによって〈統制内の状態放置〉を表すようになる点は両言語が共通している。また、「死ぬ/xeu」という動詞は「過程的変化動詞」の性質も「瞬間的変化動詞」の性質も持っているため、「使役態+テンス」で終わっている文でも、放置を示す語句と共に〈発生放置〉と〈進行放置〉の意味に解釈でき、「～ておく/～‘xi zhak」と共に〈統制内の状態放置〉の意味にも解釈できる点でも両言語が共通している。

「仮定的使役表現」の場合、両言語のアスペクト的な意味は異なる。す

なわち、アムド・チベット語の場合〈放任〉や〈放置〉を表す最も典型的な文型は「仮定的使役表現」であるが、日本語にはそのような文型が存在しないということである。意志動詞と無意志動詞のうち「過程的変化動詞」が述語となるアムド・チベット語の「仮定的使役表現」の場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わずに〈発生放置〉を表し、「～'xi zhak (～ておく)」の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉の意味のみを表す。これに対して「瞬間的変化動詞」が述語となる「仮定的使役表現」の場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わずに〈発生放置〉を表し、「～'xi zhak (～ておく)」の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉〈統制内の結果継続放置〉の意味を表す。

両言語の〈放任〉と〈放置〉におけるアスペクト的な意味の共通点と相違点を表にまとめると次のようになる。

動 詞		共 通 点		相 違 点	
		非仮定的使役表現 (両言語共通の文型)		仮定的使役表現 (チベット語のみにある文型)	
		使役態+ テンス	使役態+～ておく /～'xi zhak	使役態+～'xi zhak	使役態+ テンス
意志動詞	過程的 動 詞	発生放任 進行放置	統制内の進行放任	統制内の進行放任 統制内の進行放置	発生放置
無意志 動 詞	瞬間的 動 詞		統制内の状態放置	統制内の結果継続 放置	

「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わずに〈発生放置〉を表し、「～'xi zhak (～ておく)」の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉の意味のみを表す。これに対して「瞬間的変化動詞」が述語となる「仮定的使役表現」の場合、「使役態+テンス」の形で終わっている文は、放置を示す語句が伴うかどうかは問わず

に〈発生放置〉を表し、「～'xi zhak (～ておく)」の形で終わっている文は〈統制内の進行放置〉〈統制内の結果継続放置〉の意味を表す。

注

- (1) 「'xi zhak」の「'xi」は日本語の接続助詞「て」に相当し、直前の音によって「[Vi]」「[ri]」「[mi]」「[yi]」などに变化する。「zhak」は「置く」の意味を表す動詞の完了形で、非完了形は「jok」で表す。

参考文献

- 松下大三郎 1930『改選標準日本文法』改正再刊 1979 勉誠社。
宮地裕 1969「せる・させる一使役（現代語）」。松村明（編）『古典語現代語助詞助動詞詳説』學燈社。
佐藤里美 1986「使役構造の文一人間の人間に対するはたらきかけを表現する場合」『ことばの科学 1』むぎ書房。
佐藤里美 1990「使役構造の文一因果関係を表現する場合」『ことばの科学 4』むぎ書房。
孫東周 2005『日本語の動詞とヴォイス』Publishing Corporation。
柴谷方良 1978『日本語の分析』大修館書店。
タシツリン 2005「日本語とチベット語の使役表現における形態的及び統語的な特徴」『学習院大学人文科学論集』14号。
タシツリン 2006「無常物に対する使役表現——日本語とチベット語を比較して」『学習院大学大学院日本語日本文学』第2号。
タシツリン 2006「日本語とチベット語における使役表現について——有情物主語の場合」2006年『日語日文学研究』第57輯 韓国日語日文学会。
タシツリン 2006「アムド・チベット語における使役表現「keu jeug」について」2006年『日本西蔵学会会報』第52期 日本西蔵学会。
タシツリン 2009「日本語とチベット語の使役表現」博士学位論文。

间接干预型使役文的体意

扎西才让

关键词：使役文（使役），体（アスペクト），藏语（チベット語）

使役文可分为直接干预型，间接干预型，非干预型三种。本文阐述了日、藏语中的间接干预型使役文的时态。当“过程性动词”充当使役文谓语时，两种语言都表示‘发生放任’和‘进行放任’，后续“ておく/～‘xi zhak”则表示‘控制中的进行放任’；当“瞬间性动词”充当谓语时，后续“ておく/～‘xi zhak”才能表示‘控制中的进行放任’。

安多藏语中表示‘放任’的最典型的句型是“假定型使役文”，日语中不存在这种句型。当“过程性动词”充当“假定型使役文”谓语时表示‘发生放任’，如后续“～‘xi zhak”表示‘控制中的进行放任’；“瞬间性动词”充当谓语时表示‘发生放任’，如后续“～‘xi zhak”表示‘控制中的进行放任’和‘控制中的结果继续放任’。